



景清外傳

一編

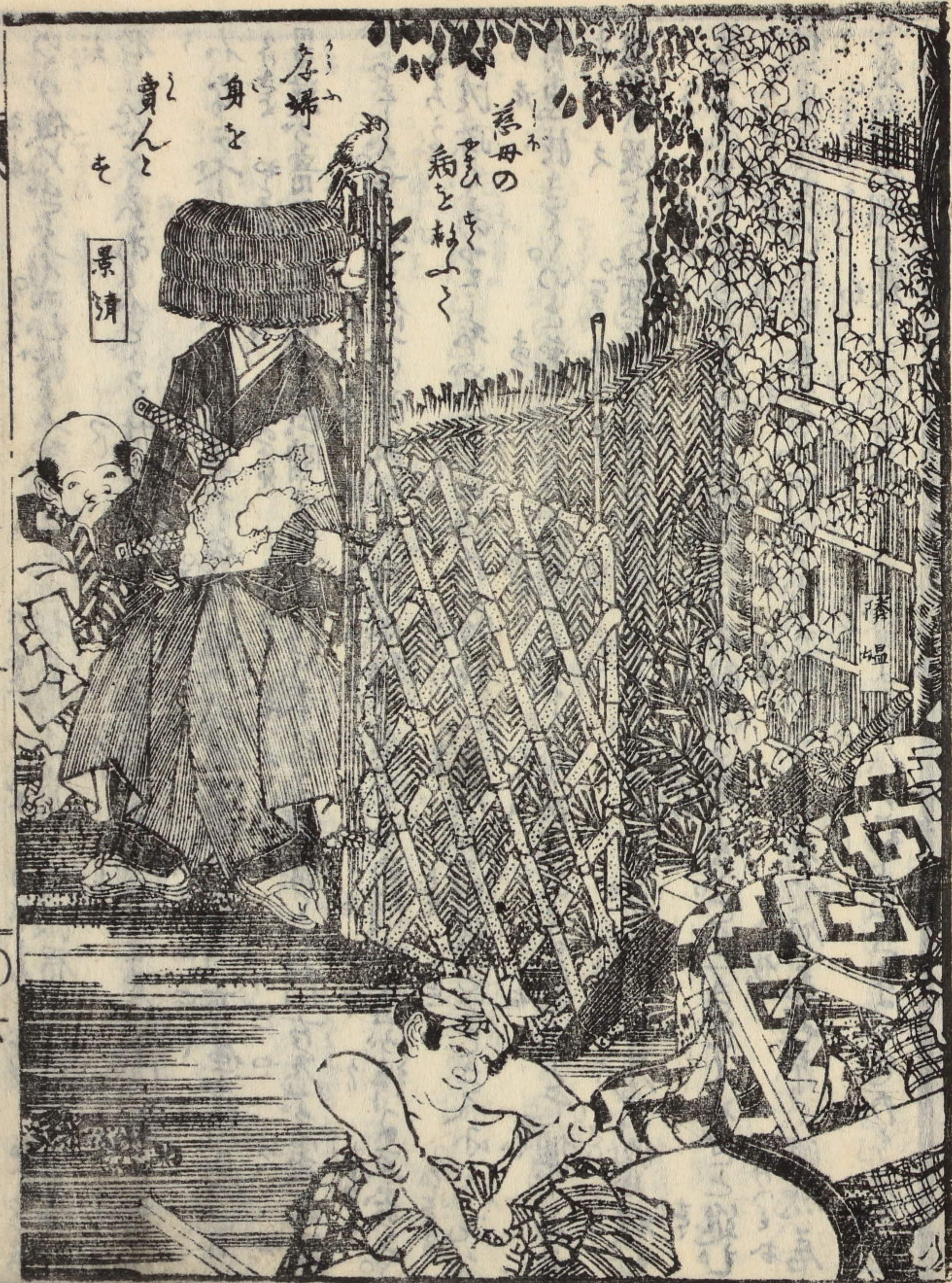
三

^ 13
2891
3



るは侍が今返す時なればは正と償ふ黄金のるたまふ因今債主の許は約ん
と親子別成情めるるは景清あつくとは成情と斯侍孝子を助けがやると
あふあ残すや阿古屋の轎子より死をうとく慌忙く走中又門もくは果
侍は不図なごと実當たるは隣老媪の顔うらし妨げをそとをまてくま
とまはと景清の腕のむき止め老媪は對ひくまりけるは今轎子おれ
めは阿等の人ふく。斯は礼拳動し。そまき老の奇怪は台告あんと
いれまはげ。老媪は呵くとうと笑ひ人の門もみ業肉の中り立休みの鳴り
なるふ。とまはのめ昇出を道成中除けく立塞り。其方よりて突
中たま。爾る紙け方の外もは。まんとまら成妨る事をはむ白痴は流る
ゆき益ともり人も。爾るふあふも人。ははるもま。後せろろは。媪かを
よくは。後ともひ轎子。はまのめ。阿古屋といく。白拍子上りのはあり

つとふ今。波羅の地内はまは。地方も。金賜を。贈ひの。門出。き。と。は。妨け
止ん。ま。彼。地方。の。め。ら。は。は。数。の。金。を。と。借。り。止。ん。よ。ま。ら。あ。べ。り。と。ん。と。は
ま。ら。の。金。を。と。人。と。お。か。へ。ぬ。の。う。ら。ふ。爾。へ。做。ら。ま。一。笑。止。や。と。飽。も。て。欺。ま
ま。へ。り。ける。景。清。は。百。成。は。ま。は。ま。と。怒。を。発。し。老。媪。と。ま。ら。人。替。ん。と
せ。う。ま。ま。と。お。ひ。の。ま。ま。中。へ。我。索。阿。古。屋。が。孝。ひ。成。感。ま。は。あ。ま。ま。と。く。え
と。く。そ。の。怒。は。老。媪。を。辛。き。目。を。存。か。か。つ。く。は。素。意。成。果。と。ふ。至。る
ま。と。怒。を。釋。め。く。ま。り。ける。ま。ら。阿。古。屋。は。あ。ま。り。ける。は。我。は。君。の。風。流
な。は。舞。の。上。の。舞。を。は。贈。ひ。の。ま。く。ま。ら。も。召。使。ま。ま。き。人。な。き。お。今。自。ま。で
お。く。ま。り。か。入。は。贈。ひ。の。ま。ま。ま。ら。年。順。日。来。ま。は。は。は。望。へ。と。ま。は。贈。ひ
お。ま。其。金。の。幾。許。の。金。を。知。れ。ま。ら。も。その。金。の。數。成。借。ひ。て。別。は。老。媪。は。幾。許。の
辛。苦。錢。を。ま。ら。は。阿。古。屋。を。我。は。ま。ま。ま。へ。我。は。平。家。の。地。内。あり。上。卷。の。七。兵。衛



のし傲るがうんひはよあおせのとおひあけ小肯人の難波眉成一後と言舌煙
野一死ともあふま。く情もく人又知れしそ漏る仕扱ぎのそし早く吉九
右のまじりと。暇然とじ還るうぬ隣媪は日よも日毎阿古屋が舞よりの
胃法が音耗を窺ふは時しも胃法が奉公の暇もく阿古屋が家よ末
さうぶがやうく仕への腹減りく。清水精の還るさ阿古屋が舞より
辺に疎くあやしやがる。互ははりの物終り悲りど時分るをさへ人丸が
智恵はまき。いと老りきか西鶴とあやま。今夜のころ。舞んとそ。偶々
後者へ還りぬ頃秋の夜もく。夜はまきくあやしや阿古屋の酒を飲む
さへ母の五十奈もあやま加茂川の鮎乃美く。こまきこくせと進む
れは胃法をまび我鬼をまき。阿古屋は酒をとりめて舞をまき。酒飲居
る隣老媪の窺ひえん。宜折ると蜜はまき。こまき。ぬまき。こまき。

胃法がうんひはよあおせのとおひあけ小肯人の難波眉成一後と言舌煙
野一死ともあふま。く情もく人又知れしそ漏る仕扱ぎのそし早く吉九
右のまじりと。暇然とじ還るうぬ隣媪は日よも日毎阿古屋が舞よりの
胃法が音耗を窺ふは時しも胃法が奉公の暇もく阿古屋が家よ末
さうぶがやうく仕への腹減りく。清水精の還るさ阿古屋が舞より
辺に疎くあやしやがる。互ははりの物終り悲りど時分るをさへ人丸が
智恵はまき。いと老りきか西鶴とあやま。今夜のころ。舞んとそ。偶々
後者へ還りぬ頃秋の夜もく。夜はまきくあやしや阿古屋の酒を飲む
さへ母の五十奈もあやま加茂川の鮎乃美く。こまきこくせと進む
れは胃法をまび我鬼をまき。阿古屋は酒をとりめて舞をまき。酒飲居
る隣老媪の窺ひえん。宜折ると蜜はまき。こまき。ぬまき。こまき。

婦女の衣家又對々を乳奉勅あふ立所又討果まを何且下る。彼城ろけんは
 へあふ終どのいしぬ塚有あまて。非道不殺まふらとて入城のも終くと害ま
 べ。存公まを身が緑林の初ひま且つハ公の制由ある城をまふ初らま教ま
 ちどそのうぶ。こま不備ひく少年の邪りまをめまよくあるとなん凡民と海
 む。悪と懲て若は勅むを昔政とあははる不明るぬ編祖の沙汰ハ民の
 必死非らま城。驥まはみまらまらと結回又重社ハ勅然やうと怒をほま
 不肯スるまもくハ又いもけ。穢又居く邪正を乳ま未嘗て不正をせま今この
 老嫗う様死のりハ少く悪ふ有あまらる。城寛くたまるとり必む迫死はけ城を
 搜索知く罪城乳ん下ハ城を捕の任たると。業城定む又関るべらや爾ハ城
 扇の在城ろく。老嫗を殺ま景法が所為と終不審さよ。奈何るあろて
 公扇の由果とる外城知るや。よハ扇果法が不殺まらと入城入知らハ賊とせんとい



重能 難波
 奸計と破

難波次郎

阿波氏部

景清小傳 卷之三



五十余入丸



景清

季頼謀

景清と

絶交

季頼

阿古屋

居へ今回の縁又の以手紙同多の對意尖又恐怖をなく忠義面小父小
ける果は時右大將の以側小なるが信連が勇敢を源く感宗盛卿と
練め申じ死刑に所せしむべき中者く獄又誓死を后渡辺競をるま
こま右大將豫てしを彼が骨柄の類なき好りくおかせしを親
政が弱強同のむ只顧我は後よと執め終又降さぬを源競が
忠臣ある豫てしを知はし又實又伏さぬを源競が
小遺王の親政と鬼由角をるるを忠義を全くし多爾あるを後日
君の恩義を感激し存命居るに實又伏せん今降るるを源競が
量がしとまを強めたるを右大將聽めらむ強又田おひく恩賜教
あつはるるを中松兼あつ小槽毛と云ふ小貝鞍おひてり
競はし源競はたむ篤く感謝一家又還王そむ日甲且小彼小槽毛は

鞍如三井寺小弛糸の親政小見氣し未入當り小松馬をて手せし
怒を報入るるを父は子に伝ふなく悲びむいも源けしとよと源
主人又子にえしと父に伝ふなく悲びむいも源けしとよと源
く當預るる多ひかて彼馬の發或籍王法師馬小へ平宗盛といと時
やう小焼印し京師の方へむむけく追放ちけしを向のうち小宗盛の
誰は還りける入ると又父は小槽毛にて宗盛といひ焼印あつ小ぞよは
おのく宗盛が競は欺まて我情王國源が結は後ぬ或あう後悔るる小
けるおそき宗盛の三井寺小入多ひけしと後ひまのうとめといと源三位
入道一家のそを父は三井の流統るるをむむけくおのくのそを源
中宗盛の軍勢のそを父は三井の流統るるをむむけくおのくのそを源
寺るる南都の真福寺へ標状を送り援成をふは真福寺へ連小源へ返

